ゆりかご園だより

3期(10~12月)のねらい
手を使ってつくりだす活動を中心に
園生活を豊かにしよう。

2022・12・1

第45回全道保育合研が先月3年ぶりに開催されました。コロナ前は全道各地から団体や個人が参集し、保育をめぐる様々な実践・研究・運動の成果を交流し合い、学び合う機会になっていました。1976年にゆりかごの矢島前園長を含めた5人の保育関係者がよびかけ人となって、集会実行委員会を結成し、第1回集会を北九条小学校で開催したのが全道合研の始まりです。その後も「ゆりかご保育園を育てる会」からメンバーを選出し、事務局や実行委員に名を連ね、職員と父母たちが全道各地の仲間たちと学び合ってきました。今回も講師の先生のお話や、各地からの発言に元気をもらいました。

そして、先月はもう一つ研修に参加しました。こちらは全国規模の保育実践の研修です。

記録には、子どもの成長を職員間で共有するものや保護者と共有するものなど、様々なものがあります。実践記録となると、自分の保育を振り返るきっかけとなり、保育の質や保育者の力量を高めることにもつながります。全国からの参加者たちは、保育園だけでなく、認定こども園、企業型保育園…、形態や定員数など様々な園の職員です。ゆりかごは子どもの成長には保育者と保護者の共感と共有が欠かせないと思っていますが、他園の「うちの会社では最低限の保育の様子しか伝えない」「保護者様が聞きたくないだろうなと思う子どもの様子は伝えないようにしている」といった発言があり、園の文化の違いを感じました。

確かにわが子が友だちともめて相手を噛んだり引っかいたりしたという話を聞くのは親として胸が痛むかもしれません。しかし、子どもは他者との関わりの中で様々な思いを経験し、より豊かな人間関係を学んでいきます。今、わが子がどんな発達段階でどんなふうに"人との関係"をつくっているのか、これは家庭の中だけではつかめないと思います。

今、はと組の子たちは叩いた、ひっかいたというもめ事の報告をしに頻繁に事務室にやってきます。当時者だけでなく他の子の力も借りながら、お互いが納得できるよう私も一緒に考えています。こういった経験を重ねたからこそ友だちとの関係が広がり豊かになっていくのだと思います。

今回の全道合研で、元帝京大学教授の清水玲子さんは講演の中で"保育園は子ども同士のかかわりを保障できる貴重なところ""大人同士も共に子どもを育てる仲間としてかかわれるところ"とおっしゃっていました。今後もゆりかごの文化を大切にしていきたいなと思います。